

唯一身を潔くして善き事もせぬが悪い事をせざる
 は退守の道徳に傾きて居る、西洋の道徳は進取の
 方に傾きて居る、實に世の中を見るにこの三育の
 揃ふた人は少い、假令三育とも短くても揃ふた方
 がよい、好し一方が長くても一方が缺けて居ては
 鼎が立たぬ、それでは少しも用をなさぬ、現に世
 の中を見ても分る、智慧があつても用ゐられぬの
 で貧乏して居る者もあり、徳があつても身體の利
 かぬ者があり、身體は立派でも馬鹿で用ゆる所
 ない者がある、此れ皆三足の揃はぬので不具であ
 るからである、世の兒童教育に従事するもの智育
 のみを進めても役に立たぬ事を知らねばならぬ、
 世の中の人、智の効能は直ぐに己の身に適切
 に來ることを知る、けれども徳の効能は他人に行
 く様に思ふ、是れ思はざるの甚きものである、
 道徳の効能は一層も二層も大に我が身に報いて來
 るものである、彼のナポレオンも道徳の力は身體
 の方に十倍すと言つて居る、道徳の効能は適切に
 己の身に報いて來るものであることを眞に信する
 事の出來ぬ中は至誠の心が發せぬ、至誠の心が發

せぬ中は眞に兒童を感化せしむることが出來ぬ、
 故に人の師たるものは、至誠の心を發するといふ
 事が一番初めである、至誠といふ事は何事に就て
 も必要であるが、人の師となるものは己れ一身に
 止まらぬ、子弟の身にまで關係を及ぼす故殊に必
 要なのである、夫から先入主となると云ふ事があ
 つて、子供の心は淡泊純粹のものである、之に先
 入するものが必要であつて、若し先入其宜しきを
 誤れば實に其人を誤るものである、決して輕卒に
 思つて貰ふてはならぬ、之を思へば兒童の教育に
 當れるものゝその責任の重き事は實に山の如きも
 のである、然るに輕卒に心得る者あるは實に嘆ず
 べきことである。

小兒に玩具を持たせぬ 主義に就いて

玩具に關する名家の説は家庭雜誌や新聞の上など

湘陽生

で屢眼にする所であるが最近の某家庭雑誌々上で某博士夫人の談話だとして次の様なことが出て居つた。記者は世の名家とか名流とか云はるゝ人々の説には常に感腹しないことが多いので多くは讀んだことがないけれど、是は自分の職掌に關係して居ることであるし、且つは其世を誤り人を過るこゝとが多いだらうと思ふので、茲に一つ評論を加へて見やうと思ふ。其全文と云ふのは次の通りである。

小兒に玩具を持たせぬ主義

小兒にいろいろな玩具を持たせ遊ばせませうことは教育の上から申すと、爲めになります善いことのやうにも承つて居ますけれど、私共のやうに女中の手を借りず、子守一人置きませんで、七人と云ふ大勢の子供を、兩親の手一つで育てて参りますには、銘々に珍らしい玩具などを持たせませうよりも、寧ろ玩具を持たせずに、温順に遊ばせませうが、小兒のためにも却へて善き教へとなりは致しませうかと心付きましたので、玩具は一切廢めさせて仕舞ひました。

玩具を持たせて置きませうと小兒にいつても機嫌よく一人で遊んで、誠に母親の手數も省けますやうに考へられます。成程小兒の氣に入りました玩具ですと世語もやげませんで温順しく

して居ますけれど、いつまでも一つの玩具ばかりでは承知致しませぬ、直きに厭きては何かほかの珍らしいのを欲しがります。爾う致しますと親の情として、また新しい異つた玩具を買つて與へます、小兒は珍らしがつて暫くの間は、又夫れでなければなりませんやうに機嫌よく遊びますから、その間親の手が離れますので、従つて家事向きの用も都合よく運びます。

私も初めて小兒を持ちましたときは、玩具を買つてやつて、成丈機嫌よく遊ばせませうといたしましたが、さて厭きました玩具は、最早振りむきもされないので、幾程新しく買つてやつても隙限が御座いままんでした、夫れに犬とか汽車とか喇叭とか申すやうに、異つた品を持たせる間に、いつか品の良否を覺え無い玩具ですとお頭を振つて、なかく満足ないたしませぬものです。

此分で小兒に玩具を買立てられましたら、僅かのことのやうでは御座いますが、積つて見ますと玩具位といればませぬ價になつて居りまして、之れで何かほかの重寶な品を求めたらばと思ふ程になりました、又そればかりでは御座いませぬ、欲しがらからと云つて買つてやりませぬと、遂には小兒が粗末にいたしました、之れは教育の上から申しても小兒の不爲だらうと考へます。

御經驗に富んだお方のおはなしに、平常澤山玩具を持たせつけますと、小兒を戶外へ連れて出ましたとき、玩具屋の前でも通りますと、珍らしい玩具が直ぐ小兒の目に留り、袖に纏つて買

いたがりますので、親御さまは随分お困りになりますと、申して外にすかしやうも御座いませんから、歸りに買つてあげませう、と宥めましても、其位の事ではなかく承知致しません、何うあつても買ひませんうちは一足も動きませんで、果ては泣いて強請めますから、據どころなく買つてやるやうになります、斯ういふお子さんは一ツには尋常ならいらく買つた玩具を持つて遊びつけた習慣があるから、何より先きに玩具が目について買ひたがるのだと被仰いましたが、成程これは御尤なこと、深く感心致した事がありました。

夫れに小兒の欲しがりますやうな玩具には多く鉛筆細工を見受けます、頑固な小兒にこれを持たせました爲め、鉛筆の尖きで足を切りましたり、指を怪我をしましたり、するお兒さまは随分是迄御座いますやうです、夫れに小さい小兒ほど玩具を嘗めますから、もしも玩具の破れたるを知らずに居りまして、夫れを口へでも入れたことなら、眞實に一大事で御座います、斯んなことを考へますと、小兒が玩具を持つて、機嫌よく遊んで居ますときほど、却つて親は油斷が出来ません。

いろ／考へました末、何うしても玩具を買つて持たせぬほうが小兒の爲にもなります、又家屋の儉約にもなりますから、まだ小兒が玩具になじむ癖の付きませぬうちに、とう／＼之れを廢めさても持たせぬ事にして仕舞ひました。したく／＼最も、爾う致しますには、何か玩具に代用します品を工夫して持たせなければなりません、幸ひ不用な茶壺が御座いまし

たから、試にこれを持たせて置きました、夫れから糸巻きの不用なものも一ツ御座いましたから、夫れも持たせました處、矢張り機嫌よく遊びます、斯ういふ品を、玩んで居れば別段危ない事もありません、また斯ういふ品ですと廢物利用にもなつて、玩具の價を拂はずにも済むことになりませう。

是れから後私どもでは玩具は全く不用になりまして、却つて不用になつて居りました茶壺や古い糸巻などを遊び、小兒は喜んで温順しく遊びました。

(完)

今以上の談話を熟讀して見るのに大體に於て玩具を持つたせぬと云ふことの理由は主として一家の經濟上及主婦の管理上より來て居る様である、玩具は子供の望むがまゝには迎も買ひ立てられぬとかおとなしく遊んで居る間に仕事が出来るとか云ふのは其ためなのでせう。此お母さんのお考では子供の玩具と云ふものは贅澤のために與へられるか又はうるさいのを免れる爲めに與へるものであると思つて居るのでせう。玩具が斯様に單に母親の方の便利の爲めに與へらるゝものならば、是は別段議する必要もないですが、元來が子供のために與へらるゝものであるから此議論は的を引れた愚論であると云はなければならぬ。尤も此議論は

多少筆者の書き過ぎもあるだらうと思ふ。子供の玩具は思ふまゝに與へたら可なり。經濟上の問題になるから家計の程度に於て何れも相當な所で制限しなければならぬと云ふのなら、聞えたことであるが經濟上可なりの問題であるから一切止めると云ふのでは話にならぬ。丁度、食ふと云ふことは金の掛ることであるから一切止めると云ふのと同じで何と議論してよいやら判らぬ。或は亦玩具店に賣れる玩具は一切買はぬ家庭内で都合して得らるゝ器物で工夫して遣ると云ふ主意ならば是は全く持たせぬとか一切與へぬとか云ふのではなくて玩具を與へる上に就いての一種の考案である。之を一切與へぬ主義などと云ふのは少しく誇張の言ひ様か又は筆者の誤りである。又某夫人は玩具を與へるに就いて子供は種々なる弊害に陥る様に云つて居るが、是は玩具を與へるに就いての方法の罪であつて玩具を與へると夫自身の罪ではない。其方法は幾等も改良の方法があらう。其が爲めに玩具其物の給與迄も止める必要はない。元來、子供と云ふものは玩具がなければ遊ぶことの出来ぬ

ものである。遊ぶなければ發達の出来ぬものである。して見ると玩具と云ふものは子供に採つては實に大切な米の飯である。之を與へないで子供の完全なる發達を望むと云ふことは尙木に據つて魚を求めめる様なものである。フレイベルが恩物の研究したのも畢竟は完全なる模範玩具を調へんとしたのである。我等が過去の經驗に徴するも玩具の爲めに何れ位の利益を得て居るか知れぬ。是は誰でも靜に過去を思ひ起したら氣の付くことだらうと思ふ余は殊に此點に於て余の幼時を追想して愉快に堪へぬものがある。余は此愉快を今の幼兒にも與へてやりたいと思ふといやが上にも玩具は完全にしてやりたくてならぬ。兎角人と云ふものは勝手なもので、自分の通つて來た處の幸福は忘れて仕舞つて稍もすれば御都合主義で子供や後進をいぢめ様としたがるものである。是は殊に御婦人方には能くあることの様に見受ける。某博士夫人なども矢張此類の人ではあるまいか、余は疑ふ。博士夫人果して子供の時に人形やまゝ、ごとの道具を欲しがらなかつたらうか、頗る怪しいものであ

る。又此夫人は子供に玩具を興へてある間は仕事が出来て宜しいと云ふことであるけれども是は飛んで来ない間違である。幼児は玩具を持つ持たないに拘らず、決して監護なしに置く可きものでない。殊に會心の玩具を以て専心に遊んで居るときは尙更監視の注意が保母の眼より照し出されねばならぬ。教育上より考れば此間は實に千金の價値あるときである。幼児の個性は此間に遺憾なく現出すべく、教育者は此間の觀察に因つて、次の教育的計畫を立てることが出来る。そして子供の將來の運命は此間にこもつて居る。此大切な時を見て、放任して置いて濟む、誠に、都合よき時間であるなど、は我子の教育に志す人の云ふ可きことではない。是は子供を教育的に育て様と云ふ様な考を根本から度外に置いて居る下層細民の家庭で云ふ可きことである。上流社会に於ては子女教養の責任は當然母親の負擔す可きものである。母親は子供の行く所に従つて之を監視し之を指導し之を戒しなければならぬ。若し母親が多用であるなら

ば保母とか家庭教師とか云ふ類の人が其代理をなす可きものである。然るに、單に之を放任して置くに都合よからしめんために或は金屬製の玩具は危険であるなど、云ふのは事の本来を考へぬ迂論である。次に、玩具は家庭の廢物だけで間に合ふであらうか如何、大に研究す可き問題である。成程、玩具に家庭の廢物を利用するとは誠によい思ひ付きである。殊に家庭の職業を自然的に相續させ様など、考へて居る人には尙更巧妙な誘導方法と云はねばならぬ。此點に於て此主義は一個の教訓を吾等に興へられたと云はねばならぬ。吾人は之を此談話の徳として博士夫人に感謝するものである。併しながら玩具として家庭の廢物は完全なるものなりや、家庭の廢物は玩具として完全なる種類を包含せりや頗る疑はざるを得ぬ。彼理學的現象を観察せしむる種々の玩具の如き果して家庭の廢物中に之を存せりや勿論、家庭生活の程度に因りて其廢物の多少、種類等は各之を異にするに相違ないが如何に多種多量の廢物を出すにもせよ玩具として必要缺く可らざる凡てのものを存せり

や否や吾人は之を疑はざるを得ぬ。且廢物といふ以上は何れも使用済のものである。従つて清潔なるものとは云へぬ。時には危険なるものもあらんかと思ふ。若し廢物を子供に與ふとせば此點は如何に處す可きか、或は新なる玩具を買ふ以上に手數と費用を要することなきか之大に研究を要する問題である、尤も、吾人とても廢物利用と云ふことをして居ない譯ではない。紙の切れ端、木片の數々は勿論のこと野菜や、穀類の残りものなど何れも夫々利用の通があつて幼児の遊戯に一段の光輝を添へるものではあるが、今夫人の云はるゝ様には有らゆる廢物の中より玩具を拱扶せんと云ふには玩具の種類を豊富ならしむる必要上勢、危険なるもの不潔なるものをも採集するの止む可からざるものがあらうと思ふ。其時に當つて之を如何に處置す可きは大に考慮す可き問題である。要するに家庭の廢物は玩具として利用す可しと云ふことは結構な主張ではあるが、之を以て他一切の玩具を廢止せよと云ふことは少し云ひ過ぎた議論であると思ふ。恐くは某夫人自身も之を實行し

て居るのであるまいと思ふ。何となれば子供と云ふものはおもちゃを要求せずには居らぬものである。お雛様や鯉職は用ゐずとも人形の二つや二つはおちさんや、おばさんのお土産に貰はぬ子供はあるまいと思ふから何うしても子供が玩具を持たずに、暮すと云ふことは不可能であらうと思ふからである。

幼稚園問題につきて

藤田東洋

一、幼稚園に對する社會の評抑も世間一般に幼稚園教育の効果を全廢説や改良論をなして現在に於ける幼稚園教育を非難するの聲を耳にし無用の長物視せらるゝとは即ち社會の人々が幼稚園教育の何物たるを知らず只だ皮相觀的にして所謂一犬吠ゆれば萬犬相傳ふのではないか併し翻て實際に幼稚園教育が果して非難を受けざる様に主義方針を確立